

## 総合医療としての新たな社会資本整備の姿



布村 明彦  
論説委員会幹事  
国土交通省  
国土技術政策総合研究所長

世界的な経済不況の中で、多くの国で公共事業の実施による景気浮揚を解決策の重要な柱の一つにしようとしている。日本も今年度補正予算編成などで同様の動きが出てきているが、公共事業批判をはじめとして、依然として社会資本整備を取り巻く現状には大変厳しいものがある。また、世界的な経済の悪化などもあり、日本社会全体の今後も極めて不透明だ。しかしながら、いつの時代もそこに人々の暮らしや産業がある限り、それぞれの時代に合ったその時代の社会資本整備や管理があり、重要な役割を果たしてきた。このことは将来どのような社会になるうとも普遍的なことであり、ましてや、地球温暖化問題など過去には考えていなかった新たな課題も出てきている。

人口減少下においては社会資本整備の役割が縮小するのではとの声もあるが、日本よりも先に少子高齢化や人口減少が見られたヨーロッパの主要各国は、一度下げてきていた社会資本整備の予算を近年になって伸ばしてきている。これらは今回の世界的不況以前からの傾向であり、各国の関係者に尋ねると、将来にわたる国の基礎を整えることに投資するのは当たり前ではないかとの答えが返ってくる。また、日本では地域間の格差や限界集落の問題などがあるが、フランス政府の方に何うとフランスをはじめヨーロッパには「過疎」は無いと言い切る。様々な政策が総合的に行われているものではあるが、社会資本整備も交通量などに留まらない機能面の丁寧な評価に基づき行っており、そうした基盤づくりが各地域の重要な解決策となっている。「荒廃するアメリカ」の話で有名なアメリカも、その反省から近年は積極的に社会資本に投資してきており、中国や韓国は国家戦略として急激に整備を進めている。世界の主要国の中で、何故か唯一日本だけが、そうした重要性を軽視している感じで不思議な状況である。

残念ながら、最近の日本では様々な分野で、刹那的であったりその場の受け狙いのものが増えてきているとも言われている。こうした風潮から脱却して、しっかりと日本の将来が語られる世の中が変わっていくことが望まれる。特に、後々の社会まで大きく影響する国土の基盤づくりは、長期的視点に立ってしっかりと考えることが極めて重要であることは言うまでもない。

公共事業批判が続いてきた日本でも、最近の経済不況を受けて、新聞でも旧来型のものではないという注文付きで

公共事業の推進を求める論調が見受けられようになってきている。しかし、今ここで大切なのは、新しいか否かではなく、将来の日本としてどのような国土にしていくべきなのか、それに向かって社会資本整備や管理がどのような役割を果たしていくかという明確なビジョンや具体的戦略である。それらが十分見えないままでは、場当たりのになりかねない。土木分野だけで考えるべきことではないのは当然だが、市民工学、社会工学たる土木として、少なくとも自分たちの考えは示せないといけないのではないかなと思う。

高度成長期には、社会資本整備だけではないかもしれないが、社会資本整備により河川流量や交通量の確保といった単一目的の課題解決が図られてきた。それは多大な効果をもたらし、目覚ましい日本の成長を支えてきた。医療に例えると外科であり、確実に患部は取り除かれたが、傷跡や副作用が生じることもあった。最近の医療は、患者にとって何がトータルの幸せの姿なのかを求めべく、傷跡や副作用にも配慮した総合医療を目指している。過疎地域の問題なども、そうした地域が「取り残された場所」のように取り扱われるのではなく、住んでいる方々が活き活きと自信と誇りを持って暮らしていけるようになるべきであり、すべきである。都市地域も、総合医療的な地域づくりを考えるべき事象はたくさんある。

近年、社会資本整備については、環境との調和はもちろんのこと、受け手の効果に着目したアウトカム指標も整えられ、住民参加も進められてきている。しかしながら、これまでの流量や交通量の指標を浸水家屋数などの外向きの指標に変換しただけのものであったり、住民参加といっても説明責任を果たすというアカウンタビリティが中心であり、人の行動や生活も含めた総合的なシステム設計になっているわけではない。今 IT 分野では、情報通信システムとしてのアプリケーションソフトは作られるがこれを使う人的な仕組みとしてのソフトの欠如が大きなネックになっている。社会資本の整備・管理においても、単にハードにソフトのメニューを加えるだけで、有機的に人の行動や生活の仕方までも含んだデザインがなされないのでは、効果的に機能はしない。これからの社会資本整備としては、自然環境はもとより、人の行動や生活の仕組みなども計画に組み込んだり、コミュニティの将来デザインなども含んだ、パッケージ型の総合医療的な社会資本整備が重要なのではないかなと思う。社会事象も含んだ総合性豊かな分野であるはずの「土木」関係の人々に期待したい。